

3 中間評価のまとめ

<国際戦略全般に対する中間評価>

- ①着実に成長するアジアの重要性が高まるとともに、グローバル化に対応できる人材の育成・確保が求められるなど、**本県を取りまく潮流に大きな変化はない。**
- ②したがって、アジアの活力を取り込み、世界と闘えるあいちを目指す「国際人材」、「産業グローバル」、「魅力 AICHI」の3分野の戦略に加え、「アジアパートナーシップ戦略」という**柱立てを見直す必要はなく、現在の国際戦略を推進していくこと**で基本的に問題ない。
- ③ただし、2016年の伊勢志摩サミット、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催及び2027年度のリニア開業を好機と捉えて、国際戦略を推進していくことが重要である。
- ④また、**アジアをメインとする方向性**でよいが、生産拠点としての意味合いが強かったアジアも各国との市場獲得競争が激しくなるなど、アジアの中身や位置付け、役割が変化している点に注意する必要がある。一方で、米国の経済が順調に推移するなど、**欧米も戦略の視野に入れるべき**である。
- ⑤**県単独ではなく、各種支援機関、経済団体、大学などの関係機関や県内市町村、近隣県と連携・協力し、プランを推進する。**

<各分野に対する中間評価>

あいち国際戦略プランの初年度である平成25年度から27年度までの3年間に戦略ごとに関係部局で事業を実施した結果、一定の成果はあったものと思われる。今後、本県がさらに世界で活躍していくために、次の点に留意し、各種事業を推進する。

【国際人材戦略】

●日本人の若者をグローバル人材として育成

世界共通語として重要度がますます高まっている英語教育を充実して若者の英語力向上を図る。また、海外留学や在外経験などを積むことで、アジアをはじめ諸外国の異文化についての理解力と語学力を高めるとともに、日本人としてのアイデンティティを持ったグローバル人材を育てる。

- ①語学力だけではなく、文化や経済など本県の特性を知った上でグローバル感覚を養うために、スーパーイングリッシュハブスクールやイングリッシュキャンプは、グローバル社会における愛知の役割などの内容を盛り込んで、実施していく。

【教育委員会】

- ②ものづくりの盛んな県として、専門知識やスキルをもった人材のグローバル感覚

の育成は大切であり、高等学校における英語教育は、普通科だけではなく、職業科の生徒に対しても強化していく必要がある。したがって、「専門高校生海外インターンシッププロジェクト」をアピールしていく。【教育委員会】

③オーストラリア・ビクトリア州との連携事業である「日豪教員交換事業」や「英語教員スキルアップ事業」を今後も引き続き実施するなど、教員の人材育成を図る。【教育委員会】

④グローバル人材には、語学力だけではなく日本人としてのアイデンティティや異文化理解も求められる。若者を世界で通用するグローバル人材として育成するために、県内の大学と連携・協力していく。【関係部局】

⑤県が連携・交流している海外地域との高校生交流（派遣・受入）は、体験した学校・生徒に大きな影響を与えており、引き続き拡大を図っていく。【政策企画局】

●外国人高度人材の受入拡大と活用

外国人留学生を積極的に受け入れ、さらに当地域の発展に貢献する高度人材として活躍できるしくみづくりを行うとともに、海外の高度人材を受け入れる環境整備を図る。

⑥技術系を中心とした留学生の受入に加え、今後は文系留学生を支援する取組も検討するなど、さらに幅広く高度人材を獲得していく。【政策企画局】

⑦外国人高度人材の受入を拡大するため、ものづくり留学生受入事業を実施する他、外国人留学生向けインターンシップの拡充など、産学行政が連携して更なる留学生の活用を図る。【政策企画局】

⑧県内留学生との意見交換会を開催し、愛知の魅力をPRし、愛知への親近感を増大させる。【政策企画局】

⑨アジア諸国の各国政府機関の幹部職員を「国家中枢人材」として育成することを目指す県内大学のプログラムと連携するなど、アジア各国の中枢人材に愛知の魅力をPRする。【政策企画局】

●県職員の国際化

県職員の語学力を向上させるとともに、グローバル感覚を養い、国際情勢に精通した職員を育成することも、本県国際化の推進にあたって重要である。したがって、県職員の国際化のための取組を充実させていく。

⑩県職員に対する人材育成は非常に重要であり、職員国際化に向けた取組を行う。【政策企画局】

【産業グローバル戦略】

●海外進出企業の支援と海外とのパートナーシップ

国際情勢に的確に対応する体制を整えて、海外に進出する県内企業を支援するとともに、海外との経済交流を推進する。

①ASEAN 経済共同体（AEC）の発足や環太平洋経済連携協定（TPP）など自由貿易協定の拡大に伴い、企業の海外進出や貿易取引の一層の拡大が予想されることから、今後も引き続き、**アジアを中心に県内企業の海外展開支援**に取り組む。

【産業労働部】

②経済連携協定を締結しているベトナム、江蘇省（中国）、タイ、愛知デスクを設置したインドなど、今後大きな成長が期待されるアジアの国・地域と経済交流を推進する。

【産業労働部】

●海外販路拡大の支援

高い技術力を有するモノづくり企業の製品や、高い付加価値がある県産農産品等の海外取引を拡大するため、海外への販路拡大を支援する。

③本県の中小・小規模企業の中には**世界有数の技術を持つ企業**も少なくない。そういった企業が高品質を求められる**海外市場で活躍するための支援**を行う。

【産業労働部】

④農産品などを海外へ売り込む際には、なごやめし等と絡めたり、近隣県と連携するなど戦略的に進める。

【農林水産部】

●外資系企業誘致の促進

国内産業のグローバル化を促進するとともに、雇用の拡大を図るため、外資系企業を積極的に誘致する。

⑤リニアの開業による交通利便性の向上と背後圏人口の飛躍的な増加をPRしつつ、ジェットロ、GNI、I-BACなどの関係機関と連携しながら、自動車、工作機械、航空宇宙など製造業の集積が厚い本県の産業力強化を目指して、高付加価値企業の誘致を行う。

【産業労働部】

【魅力 AICHI 戦略】

●外国人来訪者と‘あいちファン’の増加を目指す魅力発信

外国人来訪者と‘あいちファン’の増加を目指して、観光プロモーション、イベント・コンベンション等を開催するとともに、外国人に分かりやすい情報発信を推進する。

①増加を続ける訪日外客を確実に取り込むために“Heart” of JAPAN ~Technology & Tradition のキャッチワードのもと、PR と受入態勢を強化する。

【振興部】

②海外での知名度が高まりつつある「昇龍道プロジェクト」など広域観光を近隣県等と連携して取り組む。

【振興部】

③FIFA フットサルワールドカップ 2020 などスポーツ大会の招致や MICE の誘致等を推進するとともに、大規模展示場の整備を進める。

【振興部】

④海外各地との往来を増加させるため、中部国際空港の航空ネットワークの充実を図る。

【振興部】

⑤外国人が安心して暮らしやすい地域づくりを推進するため、「あいち医療通訳システム」の充実を図る。

【県民生活部】

⑥2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン構想を活用して、草の根交流の拡大を図る。

【政策企画局】

【アジアパートナーシップ戦略】

●アジアの活力を取り込むパートナー関係の構築

アジアの活力を取り込むため、アジアの諸地域をパートナーとして互いの地域特性を活かす連携交流事業を進め、両地域双方にとって有益な連携関係を構築する。

①ASEAN 経済共同体の発足に伴い、今後は個々の国だけでなく、ASEAN 全体を意識した取組も進めていく。

②海外との連携・事業の具体化にあたっては、国の機関や大学などとも連携・協力しながら、それぞれの地域特性を活かすことができる win-win の取組を実施していく。

③海外提携地域と win-win の関係を構築していくために、相手地域に対して、県と地元経済界が連携して現地進出企業の声を相手政府に届け、本県の重要施策に貢献してもらえるような対応を求めていく。

④県の国際関連事業は庁内で連携し、ターゲットを絞って戦略的に実施する。